



吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉特定非営利活動法人 古川学人



祝・吉野作造記念館 開館15年

開館15年の2010年1月29日に撮影した吉野作造記念館全景の写真

本年三月十三日、東京の憲政記念館で開かれた「太陽と月と」私たちの憲法の人々の情熱」の上映会に参加しました。この映画は二部構成で、憲法制定の思想的系譜をたどるドキュメンタリー映画です。

第一部の「日本国憲法の水脈」は、明治期の自由民権運動の中で国民主権や基本的人権を打ち出した千葉卓三郎の五日市憲法草案や植木枝盛の東洋大日本国憲按（あん）を紹介。

第二部「日本国憲法誕生へ」では、植木らの思想を受け継いだ。鈴木安蔵が終戦直後に作った憲法草案に焦点を当て、この草案がGHQ（連合国軍総司令部）にいかにか大きな影響を与えたかを検証しています。

当館は、憲法制定に大きな影響を与えたとされる憲法研究者、鈴木安蔵（福島県出身）にあて、師の吉野が一九三三年に

開館十五周年を
迎えて

吉野作造記念館
館長 田中昌亮

出した最期のはがきなどを撮影に供するなど映画作りに協力しました。

当館での上映日時が決定次第、皆様にお知らせ致します。

一九九五（平成七）年一月二十九日、吉野作造の誕生日に開館し、本年十五年を迎えました。

開館より、企画展、吉野作造顕彰講座、講演会、GW・サマーイベント等を通じ、吉野の思想の軌跡をたどつてまいりました。また、皆さまには、貴重な資料などを多数ご寄贈いただき、厚く御礼申し上げます。

昨年より「第二回吉野作造研究賞」論文を募集し、十七名より応募をいただきました。現在は一次審査を終え、二〇一〇年に入賞作品が決定いたします。

これからも吉野作造記念館に多大なるご支援、ご協力をお願い致します。

平成21年度 吉野作造顕彰講座「吉野作造と文学者」紹介

◆講師 吉野作造記念館 館長 田中昌亮

今年も当館館長田中昌亮による『吉野作造顕彰講座』を開催しました。今年度は『吉野作造と文学者』をテーマに、吉野作造にかかわりを持つ文学者を全6回に分けて紹介しました。



講座内容・日程

■第1回 10月10日(土) 10時~12時	
第1部 予の一生を支配する程の大いなる影響を与へし人・事件及び思想 小学校時代の校長 ●山内卯太郎 中学校時代の校長 ●大槻文彦、服部誠一(撫松) 第二高等学校 ●佐々政一(醒雪) ●土井晩翠、栗野健次郎	第2部 朗読 1、「ごはん」 向田邦子 2、「碑」 松山善三 3、「A Mother's Lullaby」 4、「きけわだつみの声」 5、「愛と死の肖像」 ルイアラゴン・淡徳三郎
■第2回 10月24日(土) 10時~12時	
第1部 栗野健次郎「栗野観音像」 真山青果「羽虫は何故かは知らんぞう それでも飛ばずにみられないのだよ」 土井晩翠「晩翠草堂」 阿部次郎「白雲の行方を問はむ秋の空」 中央公論をめぐって 千葉亀雄、真山青果、滝田栲陰	第2部 日記「暗黒日記」 清沢淵 ●1945(昭和20)年1月22日(月) 「或る青春の日記」 北杜夫 ●1948(昭和23)年6月3日、6月20日 ●1949(昭和24)年3月24日、5月26日 ●1952(昭和27)年1月 「敗戦日記」 高見順
■第3回 11月14日(土) 10時~12時	
第1部 二高人の足あと ― 文学史的に 栗野健次郎(西里)、佐々政一、土井林吉(晩翠) ある学制改革の波紋 三高からの転学 中田薫 奥羽百文会と瀧水・大魚 三淵忠彦(大漁)、真山青果	第2部 啄木歌曲「一握の砂」より フランス語訳 内藤灌 作曲 小松清 レコード鑑賞 戦後の歌 8月15日と私 宮澤俊義、小松左京、永六輔 村山知義、森山和江、水上勉
■第4回 12月5日(土) 10時~12時	
第1部 小説の中の吉野作造 中野重治「むらぎも」 松本清張「小説東京帝国大学」 戸石泰一「小説秋の星空」「母とわが家の周辺」 「ひとつひとつの部屋」「父について」 辻井喬「風の生涯」 井上ひさし「兄おとうと」	第2部 戦中 防空要員 1945(昭和20)年 玉音放送 戦後の風物 ヤミ米、ヤミ煙草、馬車・輪タク お風呂・五右衛門風呂・リヤカー 陸羽東線(古川~仙台) 通勤・通学風景
■第5回 12月19日(土) 10時~12時	
第1部 黎明会の仲間 与謝野晶子、阿部次郎、有島武郎 明治文化研究会の仲間 宮武外骨、斉藤昌三、木村毅	第2部 1948(昭和23)年5月1日(土) 山形と仙台のメーデー 1953(昭和28)年 革命の指令を待っている人々 1945(昭和20)年8月15日の思い出 講座受講者各位
■第6回 1月16日(土) 10時~12時	
第1部 「さまざまな青春」 平野謙 真山青果・竹内仁・中野重治・亀井勝一郎	第2部 「拝啓 マッカーサー元帥様 ― 占領下の日本人の手紙」 「リメンバー昭和！」 袖井林二郎先生

戦後社会の動きを考えると、激動する世界状況の変化にとどまらず、国の上からの指導によつて、世の中の仕組みが作られ、国民一人一人も行政へ追従するばかりの依存体質がしみてしまつた。

最近、低成長時代に入り、阪神淡路大震災を契機に市民の自主的・自覚的な行動が、行政の対応より一層速かつたこともあつて、NPO法制定及び充実がはかられた。

法の成立の経緯を見るに、市民活動する人達の意見を反映した「議員立法」として成立し、「市民立法」という側面が見られる。

経済界も、NPO法の設立に大きな役割を果たしたが、昨今、企業の社会的責任が問われる時代となつた。

個人も又は、ボランティア活動を通じて、コミュニティビジネスに参加する人達が増えている。

NPO法人「古川学人」は吉野記念館を管理運営する団体で、平成十四年から、市より業務委託されている。契約内容は、官民協働の精神を柱に、「まちづくりの対等なパートナー」として、契約。記念館をより良くするために協力し合う関係が醸成されてきました。

つらひ
NPO法人が
目指す新しい社会

NPO法人 古川学人

理事長 佐々木 源一郎

平成21年度「吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会」活動報告

平成19年より「吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会」を実施し、今回で第3回目の開催となりました。この研修会は、学生の人材育成と交流を目的とし実施しています。講師は、「読売・吉野作造賞」を受賞された先生を中心に構成され、参加者は関西・関東・東北の大学生に参加していただきました。

研修会は2泊3日の合宿形式で、吉野作造記念館の見学、講師からの講義をはじめ、様々なテーマに基づく全体討論を行いました。研修会の最後には、参加者より研修で学んだ成果や今後の展望等を発表していただきました。

講師 6名

猪木 武徳氏	国際日本文化研究センター所長
阿川 尚之氏	慶應義塾大学総合政策学部教授
清水 唯一朗氏	慶應義塾大学総合政策学部専任講師
大川 真氏	東北大学大学院助教
奈良岡 聰智氏	京都大学法学部准教授
小川原 正道氏	慶應義塾大学法学部准教授

参加者 京都大学3名、慶應義塾大学5名、東北大学6名

研修会のテーマ「日本近代史と吉野作造」



8月31日

- オリエンテーション（講師・参加者紹介）
- 吉野作造記念館 見学

9月 1日

- 講義「公智と友情の書としての『丁丑公論』」
猪木 武徳氏
- 講義「吉野作造と二十一カ条要求」
奈良岡 聰智氏
- 「グループセッション」
参加者を「吉野班」と「福澤班」に分け討論。

9月 2日

- 研修会成果報告会、旧有備館視察

参加者インタビュー動画公開中

参加者のインタビューを当館ホームページにて動画配信しています。視聴希望の方は当館ホームページをご覧ください。

<http://www.yoshinosakuzou.jp/>

「吉野作造記念館」で検索!!

参加者感想文紹介

吉野ネットワーク交流事業

人材育成研修会を終えて

東北大学大学院文学研究科博士課程後期 手嶋 泰伸

今回の研修事業では、大変貴重な経験をさせていただきました。高名な先生方と、あれほどゆっくりお話し出来る機会は、通常の学会・研究会・セミナー等にはなく、また講演の内容についても、非常に興味深いもので、本当に有り難い機会でした。

今回の研修事業をきっかけに、吉野作造への興味を新たに、研修事業後彼の政治学に関する論文を数篇読む内に、彼の議論が意外にも私の研究と関連することがわかってきたため、現在本腰を入れて分析を進めようと考えております。

ところで、研究者にとって論文が後生にわたり「活用」されることは、共通の切なる願いと言えるでしょう。ただ単に名前が残るということではなく、学説として参照され続けるということは極めて稀なことであり、人文系の論文の寿命は長くてもせいぜい30年程だと言われております。吉野にとってもそれは例外ではなく、政治体制そのものが大きく変わった中で、当然、吉野を先行研究として引用する政治学者はおりません。

しかし、吉野は全く過去の人なのかというと、必ずしもそうではないということが今回の研修事業で

わかりました。今回の研修事業では、奈良岡先生が吉野の中国観に焦点を当てられましたが、討論の中でみえてきたのは、社会生活の中で守るべき道徳、即ち公德を如何に国内政治・国際政治の中に反映させていくのかを模索し続けた、吉野の言論空間全体に通じる特徴でした。その吉野の姿勢こそは、古川の地から日本中へ、そして世界中へ発信し得る、吉野の言論の普遍的な価値の1つなのでしょう。

歴史上の一事・一文をその文脈を無視してとりあげ、安易に現在への教訓としようという風潮はいつの時代にもあり、また最近特に非道くなっていると感じますが、吉野という人物からは、その人生や言論空間全体を俯瞰したとき、そういった皮相的な議論を寄せ付けない、本当の歴史の教訓を取り出すことが可能ではないでしょうか。少なくとも私は、今回の研修事業でそういったもののごく一部ですが、つかみ取れたような気がしています。歴史学を学ぶ者にとって、そうした意義深い機会を与えて下さった吉野作造記念館の皆様に、心よりお礼申し上げます。

イベント報告

吉野作造 生誕130年 没後75年記念

朗読会「吉野作造をしのぶ」開催!

2009年3月14日(土)

吉野作造生誕一三〇年没後七五年を記念して、朗読会「吉野作造をしのぶ」を開催しました。多くの方に吉野の人柄、魅力を知ってもらおうと、吉野のこした言葉や、没後に寄せられた追悼文を朗読、解説を加え紹介しました。当日は、県内外を問わずたくさんのご参加があり、みなさん存じ日吉野の姿に想いを馳せながら、熱心に聞き入っていました。この他、フルート奏者の鎌倉亜紀子氏、ピアノ奏者の加藤重美氏をお招きし、吉野の写真を背景に、唱歌や童謡など十曲をご披露くださいました。記念館全体が懐かしい雰囲気につつまれ、参加者のみなさんも口ずさんでいました。

吉野作造の言葉

吉野が自らの思想、人生について語った言葉の中から、十点を選び朗読しました。一部を紹介します。

人生に逆境はない。どんな場合でも人と世の為に尽くすべき機会が潤沢に恵まれている。

吉野の人生の指針をあらわした言葉です。苦境にあつても前向きに生きて行こうとする吉野の決意が表れています。

互いに尊敬し合う心が生じて来ると、互いに信じる心は益々大きくなる。

吉野の論文「社会と宗教」(『新人』一九二一年七月)の一文。吉野が抱く恋愛観を述べています。キリスト教徒であつた吉野にとって恋愛は、お互いのなかに神を認め合う

究極の人間関係だと考えていました。

自分は平素現在在るがままの自分の生活を充実したいと心掛けています。

「予は斯く行ひ、斯く考へ、斯く信ず」

(『中央公論』一九二一年十月)の一文。公人として研究に励み成果をあげ、家庭にあつては父として家族に十分な満足を与えてあげようと日々努力を惜しまないという思いが込められています。

吉野作造に寄せられた追悼文

吉野の没後、友人、同僚、弟子、家族から追悼文が寄せられました。多くは『故吉野博士を語る』(一九三三年)などに掲載されています。今回は六点を朗読しました。吉野が多くの人に慕われていたことが伝わる文章です。そのなかから、吉野の死の前夜を回想した三女小松光子の一文を紹介합니다。

「納棺の時父の身廻りの品その他に、特に、小さいはさみ(之は口ひげを切る時用ふ)、かみそり(ひげの生えるのが大嫌ひだったから)、眼鏡、万年筆、原稿用紙、中央公論等を入れて上げた。今父は元氣な体で、眼鏡をかけて中央公論を読んだり、又生活から

超越した好きな原稿を楽しみながら書いてある事だろう。そして私達が一人づつ父の許に行き、やがて再び楽しい集ひの出来る時を待つてゐて下さるだろう。」

小松光子「その前後」(『故吉野博士を語る』収録)



古川高校来館

感想文紹介

平成二十二年三月十一日、十二日、十八日に古川高校一学年の来館をいただきました。田中昌亮館長からの講話をはじめ、ビデオ上映・常設展示の内容で見学をしていただきました。その感想文を紹介します。

古川高校
青木 麻菜美

私は以前から吉野作造をよく知っていました。歴史の授業でももちろん、古川出身なので記念館にも何度も行ったことがあります。しかし、映像を観たり、お話を聞いたりするのは初めてだったので、吉野作造に関する知識がより深まったように思います。

この見学を通じて一番に感じたのは、吉野作造という偉人が古川出身であることを私たちはもっと誇りに思うべきだということです。彼は明治時代の政治学者であり、東大教授でした。明治憲法のもとで民衆の政治参加を主張し、政治の目的の福利にあり、政策決定は民衆の意向によるとして政党内閣制と普通選挙の実現を説いた民本主義を主唱



そして大正デモクラシーの先駆となったのです。大正デモクラシーは今の私たちの基盤であり、彼の生き方が大きく影響を与えました。大正デモクラシーによって、民本主義思想が拡大し、普通選挙運動を推し進め、社会・労働運動や教育運動も進展したのです。そんな大正デモクラシーの引き金となった歴史的偉人が、



ここ、大崎市古川で生まれ育ったのです。私は、そのことを忘れてはいけなと思います。もちろん、どこで生まれ育ったのが重要ではありませんが、一地域民として、彼について学び、また、彼を誇りに思い、一日本人として、彼を尊敬すべきではないでしょうか。

二年生になると日本史の勉強が始まります。長い歴史から見ると、吉野作造が生きた時代はまだまだ最近です。よく歴史を学び、理解したとき、吉野作造の偉大さをもっと感じられると思います。彼の思想、生き方に触れるこの見学はとても有意義なものになりました。

平成21年度 講演・講座依頼内容

月	日	主催者	講師	解説内容	会場
4	29	東北学院大学(仁昌寺教授ゼミ)	館長 田中 昌亮	吉野先生と かかわる人たち……	吉野作造記念館
5	3	吉野先生を記念する会			
5	20	仙台市鶴ヶ谷 寿大学	館長 田中 昌亮	吉野作造と民主主義	鶴ヶ谷市民センター
7	7	いきいき学園 大崎校	館長 田中 昌亮	郷土の歴史と文化	パレット大崎
8	19	いきいき学園 石巻校	館長 田中 昌亮	身近な歴史と文化	東松島市コミュニティーセンター
11	26	仙台文学館 友の会	館長 田中 昌亮	吉野作造と業績	吉野作造記念館

刊行物のご案内

『吉野作造研究』第6号 頒価 1,000円

主な掲載内容：企画展紹介「吉野作造と文学者」

吉野作造顕彰講座「吉野作造と文学者」

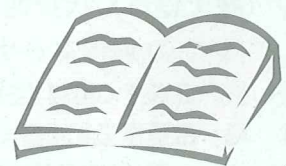
吉野ネットワーク交流事業人材育成研修会

「公智と友情—福澤諭吉と西郷隆盛の場合」 猪木武徳

「吉野作造と二十一カ条要求」 奈良岡聰智

新着図書・資料紹介、事業活動報告等

※お買い求めのお客様は、当館まで電話（0229-23-7100）にてご連絡下さい。



これまでのイベント紹介

2009年4月～2010年3月

井上ひさしの吉野講座⑱

2009年4月11日

当館名誉館長、井上ひさし氏の17回目の講演会が行われました。会場いっぱいのお客様の中、吉野の『なぜを1回でやめるな』という言葉を紹介し、持論を展開。又、書き下ろした音楽芝居「ムサシ」の結末も吉野が命の尊さを説いたことに影響を受けたことなどお話しいただきました。会場の皆さんはユーモアを交えた講演を熱心に聴き入っていました。講演後には直筆サイン入り著書「ムサシ」を販売しました。



吉野作造記念館名誉館長井上ひさし氏が2010年4月9日(金)に逝去いたしました。謹んでご哀悼の意を表させていただきます。

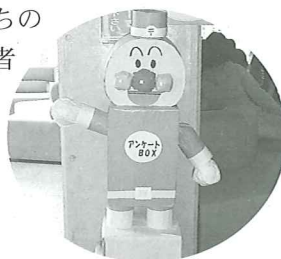
〔井上ひさし氏を偲び、
追悼コーナーを開設〕

日時 2010年4月17日(土)～
会場 吉野作造記念館 常設展示室前
料金 一般 310円

GWイベント

2009年5月3日～5日

毎年開催しているゴールデンウィークの子供向けイベント。工作コーナー「アンパンマンのおもちゃ作り」や「プラバン作り」などが大好評でした。アニメ上映や紙芝居の他、5日に行われた「吉野作造クイズラリー」には95名の子供たちが参加し、素敵な景品をゲット。入口に設置されたアンパンマンポストは子供たちの人気者でした。



サマーイベント

2009年8月1日

夏休み真只中のイベントは、たくさんの親子連れで賑わいました。恒例となった職員手作りの人形劇「かわいそなぞう」他2作品を上演し好評を博しました。晴天の広場では「吉野作造〇×クイズ」、講座室では大人も楽しめるワークショップとして、手紙に添える匂い袋「文香」作りが行われました。

▼〇×クイズ



▲人形劇

企画展「吉野作造と文学者」 2009年11月21日～2010年1月31日

本企画展はⅠ吉野作造と文学者たちの交流 Ⅱ吉野作造と文学者になった吉野作造の三部構成で、少年時代の愛読書、真山青果、土井晩翠ら宮城とかかわりのある作家たちの交流などを紹介しました。

12月5・6日には、真山青果原作・巨匠溝口健

二監督の『元禄忠臣蔵』前篇・後篇（昭和16・17年度製作）映画上映会をしました。実際の江戸の図面をもとに原寸大のセットで撮影され、史実に忠実な「忠臣蔵」として評判の高い迫力ある映画を楽しんでいただきました。



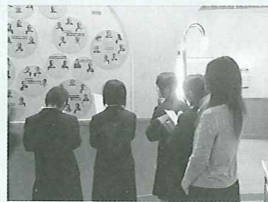
吉野ジュニアハイスクール

当館では大崎市内の中学生を対象に招館事業をしています。当館で用意したバスで送迎し、吉野の功績を分かりやすく紹介していま

す。中学生の皆さんに吉野を知っていただく良い機会ですので、ぜひこの事業をご利用ください。



バスで学校へ



* 展示室自由見学
* 質問タイム



* スライドを使って説明
* 吉野の生涯を描いた映画鑑賞（20分）



バスで記念館へ
（当館で用意）



これまでの
見学会

古川東中学校（2007/ 2/23）
岩出山中学校（2007/10/24）
三本木中学校（2008/10/ 3）
松山中学校（2009/ 9/19）

二〇〇九年三月～二〇一〇年三月

寄贈資料一覧

（順不同）
敬称略

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただいております。厚く御礼申し上げます。

＜資料名＞

＜寄贈者＞

- 『国家学会雑誌』第一二二巻第一・二号 他二点 吉野作造講義録研究会
- 『東北大学百年史』第十巻「資料三」 他二点 東北大学
- 『吉野作造通信』第十一号 他一点 菅野
- 『光炎』一鼎浦小山東助伝一 菅野
- 『平成二十年度教育・学習方法等改善支援事業報告書』杉山元治郎・鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神」 他一点 仁昌寺
- 『同志社談叢』第二九号抜刷「広瀬幸平・伊庭貞剛と新島襄—大学設立募金運動を中心に—」 太田
- 『民権ブックス』二二二号 他一点 町田市立自由民権資料館
- 『週刊朝日』一九五八年八月十七日号掲載「吉野作造氏を想う」（複写） 他四点 鈴木
- 『大学史紀要』第十三号「山崎今朝弥・布施辰治研究」 他二点 明治大学史資料センター
- 『井上ひさしの世界』 仙台
- 『政治思想研究』第九号抜刷「吉野作造における『国体』と『神社問題』」 仙台
- 『ムサシ』 猪井
- 『日本の（現代）— 大学の反省』 他一点 澤
- 写真『山本宣治あて吉野作造書簡』一九二一年九月十二日付か、他二点 武
- 国民服 他十五点 木
- 『仙臺文化』第九号 他一点 上
- 『仙台市史』通史編七「近代」二 藤
- 『日本産業社会の「神話」』 読
- 『国際政治』一五六号抜刷「満州事変下の吉野作造の国際政治論」 藤
- 『現代に求められる教養を問う』新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三に学ぶ」 鴨
- 『SOWER』二四四号 日本
- 『関東学院大学キリスト教と文化研究叢書』一「バプテスタの宣教と社会的貢献」 下
- 『みやぎ聞き書き村草子』第九集 伏
- 『書齋の窓』二〇〇九年十二月号 境
- 『法学研究』第八二巻第二号抜刷「明治日本の官僚リクルートメント」 影
- 『実態—』 山
- 『東京大学社会科学研究所研究シリーズ』三三二号抜刷「東京市に於ける消費組合の発展—」 清
- 『家庭購買組合』を事例として」 他十点 水
- 『大崎歯科医師会史』 井
- 『文化学院創立六〇周年記念』西村伊作と与謝野晶子たち」 大
- 『わが近代日本人物誌』 文
- 新聞記事「ニッポン人脈記 神と国家の間」一〜十 『朝日新聞』夕刊 岩
- 二〇一〇年一月三〇〜二月十日掲載 朝

利用案内

開館時間
午前9時～午後5時まで（入館は4時30分まで）

入館料
一般 310円 高校生 210円
小中学生 100円
（団体20名以上、割引有）

休館日
月曜日（但し祝日・振替休日に当たる場合は翌日）
年末・年始（12月29日～1月3日）

ご寄付をいただいた方

和 泉 敬 子 様

バックナンバー

「吉野作造記念館だより」
1号～17号

ご希望の方は記念館まで。
（※一部コピーで対応しております。
ご了承下さい。）

吉野作造記念館

〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1丁目2番3号
TEL 0229-23-7100
FAX 0229-23-4979
E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp
URL http://yoshinosakuzou.jp/